

北里大学病院・北里大学東病院（旧）を受診された患者さまへ

当院では下記の臨床研究を行っています。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお申し出ください。

研究課題名 (受付番号/承認番号)	有水晶体眼内レンズ挿入術前後における調節微動高周波成分出現頻度の経時変化/B21-211
当院の研究責任者 (所属・職位)	眼科・病棟医 後藤田 哲史
他の研究機関および 各施設の研究責任者	
本研究の概要・背景・目的	<p>有水晶体眼内レンズは安全性や有効性が高く、長期での成績も良く、国内では130施設以上に有水晶体眼内レンズ（ICL）が導入されており、屈折矯正手術の約4割（年間1万眼以上）にまで増加しております。</p> <p>今後も屈折矯正手術として確実に普及しつつありますが、手術後に一時的に痛みや近くが見えづらくなるといった症状を訴える方が存在します。そのような方に関しても、今までの検査（視力検査や前眼部画像検査）などでは明らかな異常を認めず、経過観察をしておりました。</p> <p>ACOMOREF2という機械は、測定される方がどれくらい調節ができていかとその調節を維持するために眼を動かす筋肉がどの程度緊張を強めているかを客観的に評価できる装置です。</p> <p>今回 ICL 挿入手術の前後での眼を動かす筋肉の緊張の程度を表す HFC 値の時間による変化を検討します。</p> <p>この検討を行うことで、ICL手術前後で一時的に眼を動かす筋肉にかかる負荷と近視の障害の関係を解明し、結果として、眼科医療の発展に貢献できると考えております。</p>
調査データ 該当期間	2020年11月1日から2021年10月31日までの情報を調査対象とします。
対象となる患者さま	上記期間内に当院にて ICL 手術を施行された20歳以上50歳未満の患者さま
研究の方法 (使用する試料等)	2020年11月1日から2021年10月31日までの電子カルテに記載のある診療記録、検査データを利用します。
試料/情報の 他の研究機関への 提供 および提供方法	単施設研究のため、他の機関への試料・情報の提供はありません。
個人情報の取り扱い	利用する情報から氏名や住所等の患者さまを直接特定できる個人情報は削除致します。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さまを特定できる個人情報は利用しません。

<p>本研究の資金源 (利益相反)</p>	<p>本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。</p>
<p>お問い合わせ先</p>	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。 ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。 また、ご自身の試料・情報が当該研究に用いられることについて、ご了承いただけない場合には研究の対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。 ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されていた場合には提供していただいた試料・情報に基づくデータを結果から取り除くことができない場合がありますが、公表される結果には特定の個人を識別することができる情報は含まれません。</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 所属・職位：眼科・病棟医 担 当 者：後藤田 哲史(ゴトウダ サトシ) 電 話：042-778-8464</p>
<p>備 考</p>	